

令和6度 第1回 幼児教育学科 専任・非常勤教員合同会議 報告

期 日 令和6年9月3日(火) 10:00~11:30

会 場 医療健康学部棟 211 教室

担 当 村上知子、三浦哲志(司会)、柴田英登

参加者 太田、石野、上野、ガート・ウエスタハウト、柴田、百海、中村、三浦、村上、山田紀子、米川、改田、坂井、鋪村、田中、表、黒崎、米谷、山崎、山田ゆかり、水上、喜多(記録)

テーマ

「各授業科目における到達目標の達成状況に対して成績評価が適正であるか。GPA の分布や授業アンケート結果から学習成果の達成状況の評価し査定（アセスメント）する。」

～ 現在の学生に対する教育的配慮と指導～

1. 学科長挨拶

2. 新特化について（米川）

3. 各部報告

（1）自己点検・評価室（村上）

卒業データの可視化・分析により、より良い学生指導につなげるため資料を作成している。

学習成果のアセスメントによる検証をみて、非常勤の先生方の意見をぜひ伺いたい。

- ・2022 年度入学生の退学率は 4.1%で増加傾向にある。残念なことに 2023 年度入学の学生は、1 年生で 8 人退学しているため倍ほど退学者が増加している状況にある。
- ・GPA 分布を比較してみると、2023 年度入学生は退学者が多いが、前期の GPA が特別低いわけではない。しかし、後期の GPA 分布をみるとやや下がってきていることがわかる。なぜ下がったかの検証は難しいが、気になる点である。
- ・幼稚園教諭 2 種免許状の取得率は 2020 年度からやや低下傾向、特に昨年度の 2 年生は自信がなく最初から幼稚園実習を辞退する学生や、途中で幼稚園実習を辞退する学生もいた。

＜グループワークで出た意見＞

- ・コロナ禍の影響もあるのか、都市部でも退学者が増えている。
- ・入学者選抜の段階で適性・目標が合わない学生がいるのではないかな。
- ・学生数の減少だけでなく、本当に保育者を目指して入学している学生が減少しているように感じる。そのため、やる気がなくなっている学生も目立っているように思う。
- ・保育の仕事は簡単だと思っていたが、勉強を深めると難しさを痛感する学生もいる。
- ・就職率に関して、幼教は修得したことを社会に出てすぐに生かすことができる。資格取得という目的がはっきりしているため、授業しやすい。
- ・成績分布表からどのような分布が望ましいのか「基準が分からない」という意見があった。評価そのものの難しさもあるため、研修の機会などがあっても良い。



- ・シラバス明記の評価方法について学生に説明しているが、試験前になって慌てて可否を尋ねる学生もいるため、評価方法についてあまり理解できていない様子である。
- ・授業中にスマホ、居眠りなどしている学生もいるが、課題提出や振り返りシートの記入はよくできている。全体の前で対応はせず個別に対応し、興味を持てるよう授業を工夫している。

4. 話題提供「現在の学生に対する教育的配慮」(柴田)

フレンドリーな学生、コツコツ頑張っている学生、寝ている学生、わからないと訴える学生等金城短大には、さまざまな学生がいる。それぞれ「やれない学生」「とてもやる学生」「やる学生」「やらない学生」と4分類し、「教育的配慮」の視点から、支援や指導について考えていく必要があるとして、PPで説明した。(PP資料あり)

＜グループワークで出た意見＞

- ・幼教では幅広く教育的配慮としていっているところがあり、その線引きは難しい。合理的配慮のように診断書の提出などの明確な手続きがないため、情報共有できていない部分もある。
- ・学生の意見を受け入れてから、授業を進めている。言葉を選びながら、意欲を持てるようにしている。学生の状況に合わせた言葉選びを心掛けている。ほめる指導が大切である。
- ・学生は対面での一对一の指導に慣れていない。ハラスメントも気になり、マスクの着用などを含め、配慮すべきことが増え指導の難しさを感じる。一方で、器楽での学生の態度で教員がハラスメントを受けているように感じることもある。
- ・学生の人数が減少しておりレッスンの時間はあるものの、一人一人の個性や特性が強く、その半分を教育的配慮(学生へのフォロー)に費やしている現状がある。
- ・落とさないでほしいといわれることもあるが、「練習しなくてもいい」と思ってしまうのではないか。少しでも努力する学生を支えていくために、足並みが揃っていないような気がする。
- ・学生の言動が年々幼くなっているように感じる。
- ・全体の問題として、学生の到達点が下がってきているように感じる。指導・教育的配慮については一貫して学生に伝える必要がある。短大生・短大の評価にもつながると危惧している。
- ・短大がどのような学生を育てていきたいのかわかりづらく、教育観の相違を感じる。
- ・短大の1年生と2年生、短大と大学で挨拶をしない学生がいて差を感じる。コロナの影響も大きいのではないかと。教員の声かけにより、挨拶する姿が見られるようになった学生もいる。教員の影響も大きいのではないかと。挨拶しないことが当たり前になってほしくない。
- ・短大1年生は金城こども祭り、パネルシアターの発表を経験し、前向きで楽しそうな姿が見られる。入学前セミナーの取組が繋がったのではないかと。自由な発想を引き出していくことが大切で、そのような機会が1年前期のうちにあったと良い。1年生のはじめが重要である。

5. その他専任非常勤合同会議に関する要望

- ・これまでは、短大側の取組について一方的に伝えられることが多く、非常勤として話すことをためらうことが多かった。会議ではもう少し非常勤側からの声を取り上げてほしい。